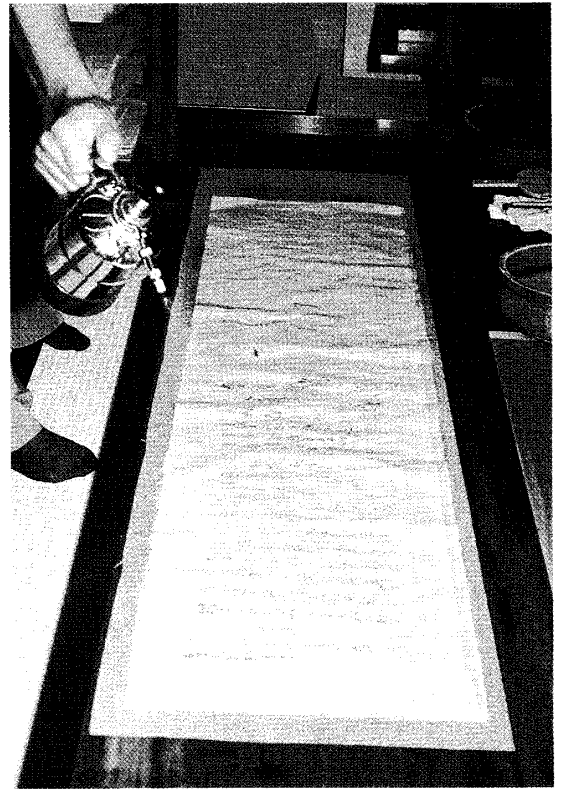
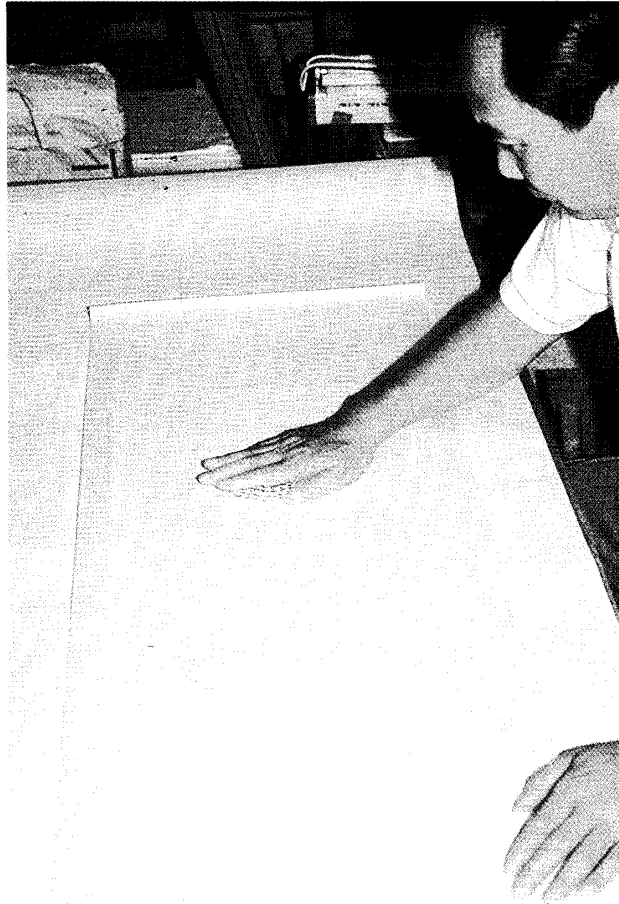


▲渡返紙の作成
(舟から簀を上げる)

◀裂表紙 卷子装 完成

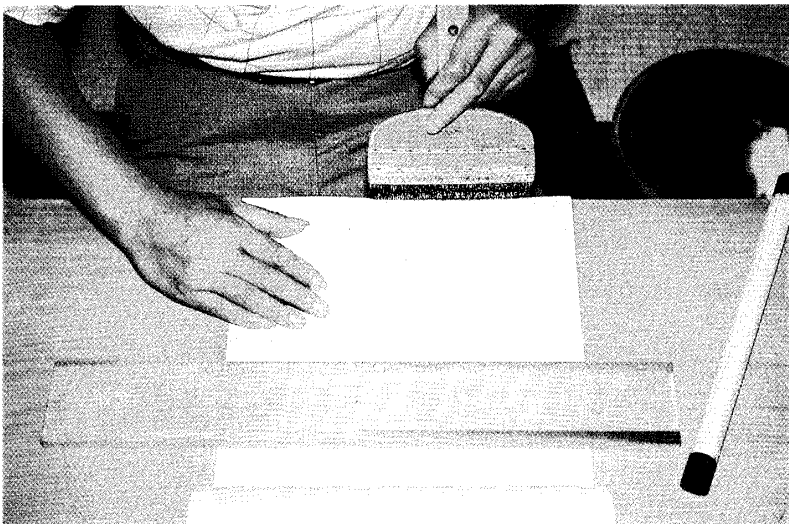


総裏打ちの前に本紙を湿らす



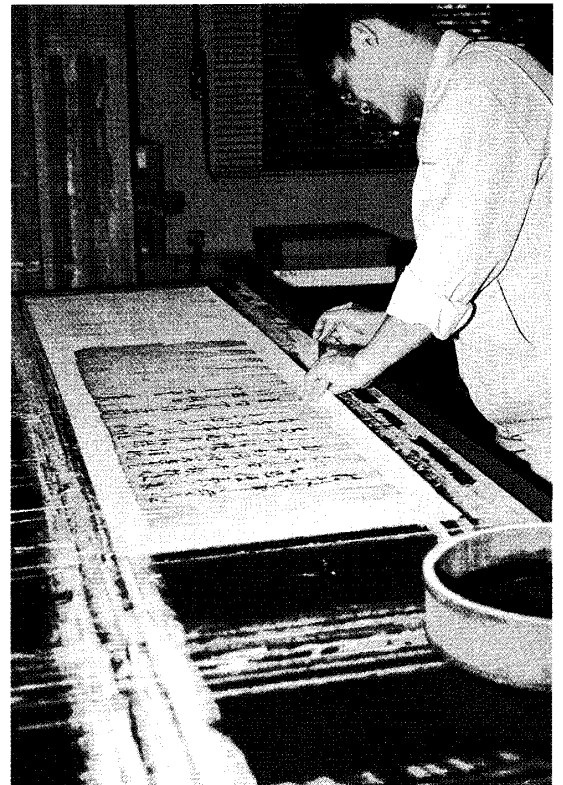
裏摺——全体を数珠玉とする

軸付——軸巻紙に糊を付ける



足掛け八年の修復終る

蘇る中世貴族の姿
紙に託した一族の運命

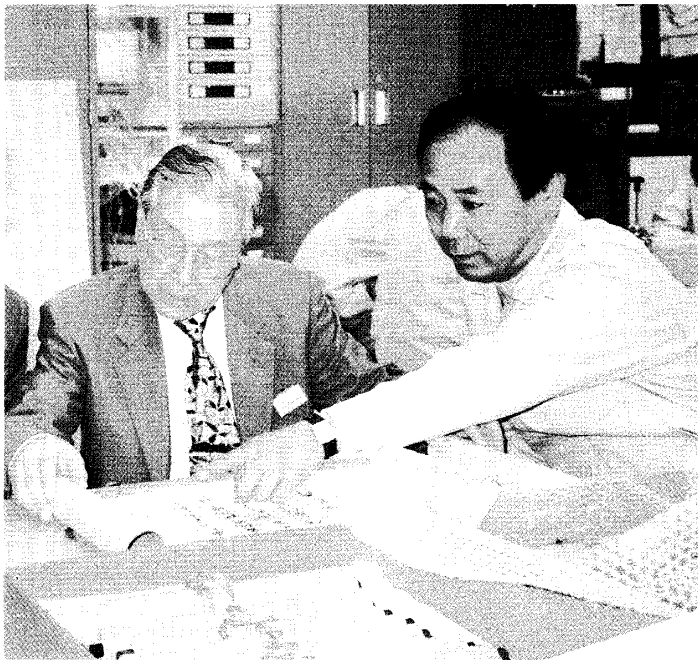


仮張のため手付紙に糊を入れる

(写真©宇佐美松鶴堂)

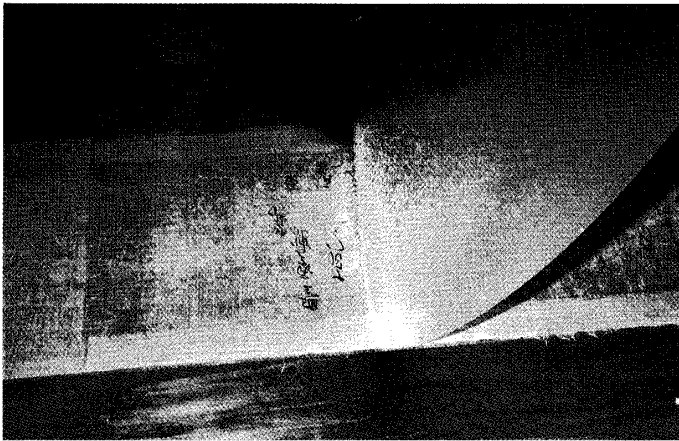
冴えわたる装潢の技

京都国立博物館文化財保存修理所

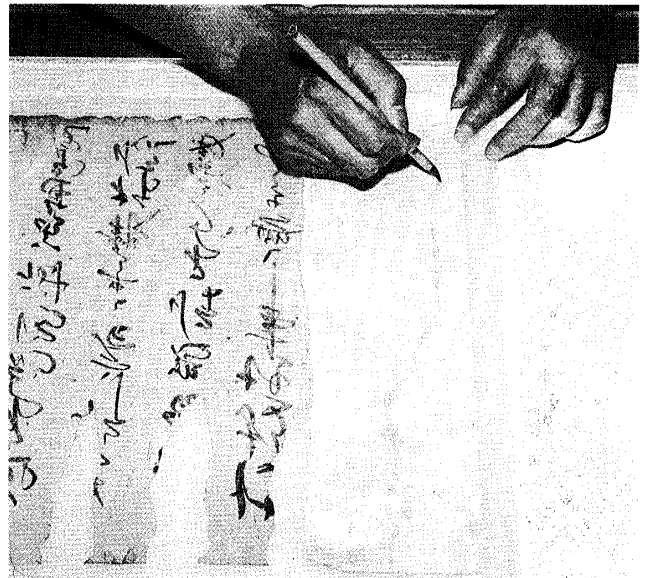


田中保氏から修復状況の説明を受け、精査する小川信名誉教授

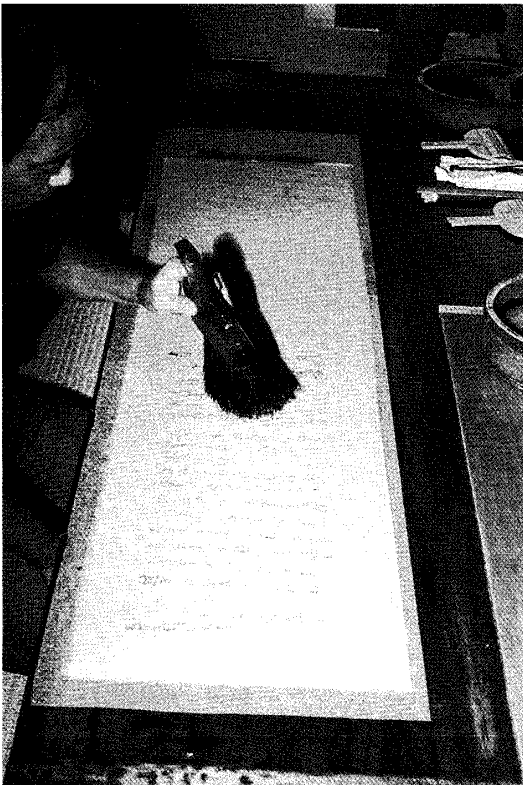
補修紙の選別——料紙の素材、厚み、質の目、モサ（繊維溜）、色味等、本紙に合った補修紙を選ぶ



肌裏打ち——新糊（再修復可能な濃度の薄糊）を薄美濃紙につけ、刷毛で撫ぜながら裏打ちをする



水筆で補修箇所の形取りをする——欠失、虫損箇所の形通りに水を含ませた筆で形取りをする



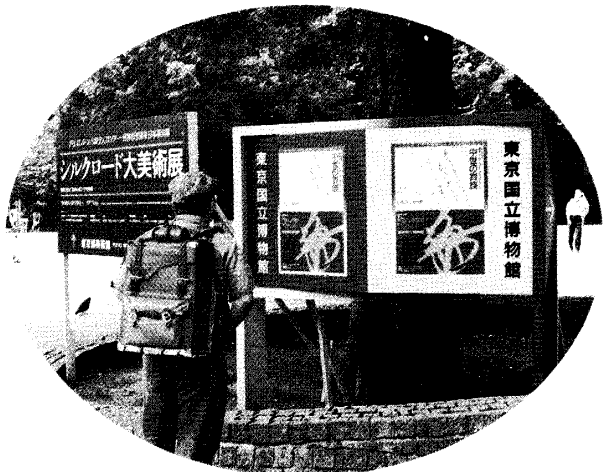
打刷毛を打つ（二度目）——薄美濃紙に薄めた古糊（約10年貯蔵した糊）をつけ裏打ちの後、打刷毛で叩き接着を良くする



漉返紙を用いて補修をする



史料に見入る参観者（東京国立博物館）



上野公園内のポスター



歓談する林陸朗、村田正志、小川信の諸先生
史料解説をする木野主計氏（東京国立博物館）



今江廣道教授の解説を聴く久我美子女史
（東京国立博物館）

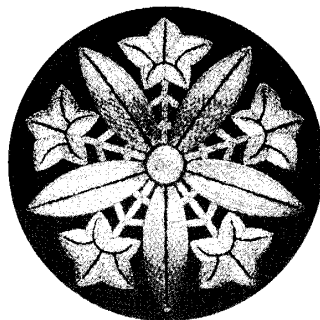


グラビア写真/中條豊

重要文化財 久我家文書修復完成記念 特別展観『中世の貴族』を開催



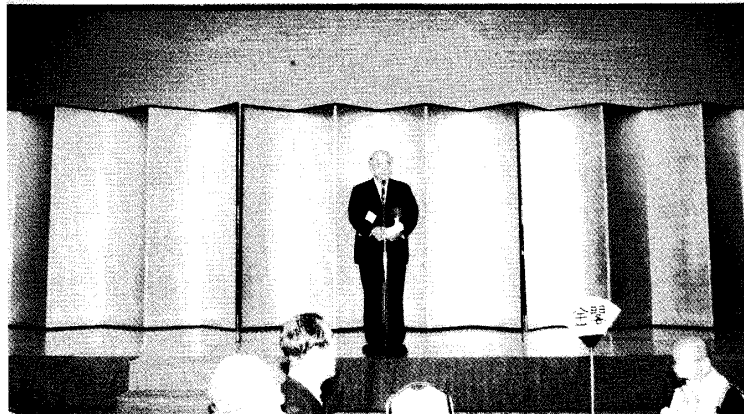
テープカット 東京国立博物館——佐野文一郎館長、
久我美子女史、佐々木周二理事長、上田賢治学長



久我竜胆車

國學院大學は、平成8年4月10日から5月6日まで京都国立博物館、5月14日から6月9日まで東京国立博物館で、特別展観『中世の貴族』を開催した。精華家の筆頭、源氏の氏の長者久我家に伝来の「久我家文書」は、わが国有数の古文書である。このたび修復完成に伴い一般公開し、中世貴族の様々な営みを紹介するとともに、併せて講演会を開催した。本修復事業は今日求められるわが国最高の装演技術をもって行われた。文書の持つ重要さに加え、和紙の優秀さもまた国際的に高い評価を受けつつある。講演会の内容とともにその修復工程の一端を紹介し、蘇った文書の一つひとつに秘められた息吹を汲み取って戴けるならば幸いである。

特別展観「中世の貴族」
重要文化財「久我家文書」修復完成記念レセプション
主催 國學院大學・京都国立博物館・東京国立博物館



京都会場—挨拶をする佐々木理事長（京都パークホテル）



展示を見る久我高照法華寺門跡

(京都国立博物館)